

Long-term prognosis of adult patients with steroid-dependent minimal change nephrotic syndrome following rituximab treatment.

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岩渕, 裕子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31323

主論文の要約

Long-term prognosis of adult patients with steroid-dependent minimal change nephrotic syndrome following rituximab treatment.

(ステロイド依存性微小変化型ネフローゼ症候群成人患者に対するリツキシマブ治療の長期予後)

東京女子医科大学内科学（第四）教室
（主任：新田 孝作教授）
岩渕 裕子

Medicine 93(29):e300, 2014 に掲載

【目的】

近年、ステロイド依存性頻回再発型微小変化型ネフローゼ症候群に対するリツキシマブの有効性が報告されているが、長期経過の報告は少ない。今回我々は、ステロイド依存性頻回再発型微小変化型ネフローゼ症候群に対し半年ごとに RTX を 2 年間（計 4 回）施行し、再発回数やステロイド・免疫抑制薬の減量について比較を行った。また、4 回施行後の長期経過について検討を行った。

【対象および方法】

当院倫理委員会の承認を得て非対照治療研究としてリツキシマブを投与した患者のうち、2014 年 3 月末日の時点で初回投与から 3 年以上経過した 25 名の患者を対象とした。リツキシマブは、単回 $375\text{mg}/\text{m}^2$ を 6 ヶ月毎に 2 年間計 4 回投与し、リツキシマブ開始前後 2 年間の再発回数を比較した。またステロイド、免疫抑制薬の減量についてもリツキシマブ開始時と終了時で比較をした。リツキシマブ 4 回終了後は患者の自由意思により終了あるいは継続を決定した。

【結果】

初回リツキシマブ投与前後 2 年間におけるネフローゼ症候群再発回数は、リ

ツキシマブ投与後において有意に減少を認めた（108回 vs 8回； $P < 0.001$ ）。ステロイド投与量は、リツキシマブ開始2年後には有意に減少した（プレドニン 24.2 ± 12.4 vs 0.6 ± 1.3 ； $P < 0.001$ ）。シクロスポリン（CyA）やミゾリビン（MZ）を内服する人数も有意に減少した（CyA, 20 vs 5； $P < 0.001$, MZ, 6 vs 0； $P < 0.001$ ）。リツキシマブ4回目終了後、5例が継続を希望されなかった。5回目終了後には4例、6回目終了後には2例が継続を希望されなかった。そのうち、4回目終了後に中止した1例のみ、CD19の回復とともに再発を認めたが、残りの10例では再発は認めなかった。一方、リツキシマブ治療を継続した14例では1例も再発を認めず、リツキシマブによる有害事象も認めなかった。

【考察】

リツキシマブ投与は、1回 375 mg/m^2 を毎週続けて2~4回行う方法が一般的だが、我々は単回投与を6ヶ月ごとに行うことで有効性を示した。さらに重篤な副作用も認めず、ステロイド依存性頻回再発型微小変化型ネフローゼ症候群の治療法として有用であった。リツキシマブを6ヶ月毎に継続投与することで、B細胞の消失期間は再発がみられておらず、B細胞消失と寛解維持の関係が認められた。治療終了後1年以降の再発が1例であったことから、リツキシマブ治療が微小変化型ネフローゼ症候群を根治させている可能性も考えられた。

【結語】

ステロイド依存性頻回再発型ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ治療は、再発回数の減少やステロイド、免疫抑制薬の減量中止を可能にし、有用な治療と考えられた。